

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の現状について

会 議 令和6年度 第1回 圏域連携コーディネーター会議

日 時 令和6年10月29日 午前10時から正午まで

開催方法 ハイブリット 精神保健福祉センター及びZ o o mオンライン

出 席 者 計27名

各圏域連携コーディネーター（夷隅圏域は欠席）

船橋市、柏市、千葉市の委託事業所の事業担当職員

船橋市保健所、柏市保健所、千葉市精神保健福祉課、千葉県障害者福祉推進課
（オブザーバー）県保健所

内 容

- 1 令和6年度第1回アドバイザー及び都道府県等担当者合同会議について（報告）

※資料に基づき報告。

- 2 令和6年度第1回千葉県精神障害者地域生活支援専門部会について（報告）

※資料に基づき報告。

- 3 令和6年度千葉県入院者訪問支援員養成研修について（報告）

※資料に基づき報告。

- 4 各圏域の取組について（近況や令和6年度の取組予定等主なものの一部抜粋）

（習志野圏域）

・市町村における支援体制等の構築事業として、市町村職員等向けに相談を受ける際に役立つ研修会を実施。

・家族会活動への支援をどうしていくか圏域内にある3家族会と意見交換。家族会と訪問看護師との交流を実施し好評であった。

（市川圏域）

・市単位の協議の場を設置するために準備をしている。

・ピア活動の推進に向けての活動を、現在動いている。船橋のオアシスに見学に行き、病院への訪問活動も実際に入り活動の見学させてもらった。

（松戸圏域）

・圏域内の家族会と意見交換というのをベースに行い、家族に元気でいて欲しいという部分で、我孫子市

内で普及啓発活動を実施。ピアサポーターの方が登壇、その後のグループディスカッションも含めて、アンケートの内容からも満足度はとても高かった。今年度松戸市で同様の研修会を実施予定。

- ・地域移行支援、地域定着支援の理解がなかなか及ばないというところにおいて、コーディネーターも一緒に参加しながら、その制度の普及啓発活動をしている。

(野田圏域)

- ・グループホーム等連絡協議会との共催でグループホームフェアを行い、当事者等が参加。当事者の方々やご家族の方々に理解を促進して入居に繋がってほしいという目的であったが、そのうちの 1 名の方はこのフェアをきっかけにグループホームに繋がった。

- ・ピアサポート活動のきっかけになればとイベントを行う予定。

(印旛圏域)

- ・圏域のにも目的というのは、この印旛圏域 7 市 2 町どこの市町に暮らしていても、精神障害者が暮らしやすい街になっていくことを、目標として国や県先進地域などの情報提供を行い、また印旛圏域にある精神科病院や家族会などの社会資源の情報交換を行い、圏域の課題を共有して、それを各市町のにも包括に持ち帰って、各市町でそれぞれの課題を検討して実行していただくということが大事と思っている。そのために市とその市の持つ機関に、中心になっていただけるように、その市町それぞれで、にも包括の意識を育てていくというようなことを行っていくということを、大切にしている。

- ・ピアサポーターについてはピアサポーター派遣事業が毎年あり、教育現場やセミナー、大学生にピアからのメッセージとして話した。

(香取圏域)

- ・地域の病院の協力をもらい状況調査を行うことになった。今年度はまず数値だけ確認して、その数値から見える、課題点などを精査していきたい。

- ・ピアサポート活動は、毎月 1 回定例会を開催。高校への訪問と交流の事業に、ピアサポーターも参加して、学生時代からの精神障害に関する普及啓発活動というものを行っている。

(海匝圏域)

- ・令和 4 年度に市長同意の医療保護入院患者の実態調査を実施。各市が早速本人に会いに行ってくれた。保健所と一緒に各病院を回り、退院支援など病院で困ってることないですかとワーカーと話をしている。各病院で抱えていること、ざっくばらんに話ができて関係づくりが、改めてできた。

- ・ピアサポートについては、香取圏域と一緒に実施。また、ピアサポーターの派遣を入院中の患者さんに対して 1 件行った。5 月には、相談支援専門員向けのピアサポート研修を行った。

(山武圏域)

- ・福祉サービス事業所が、ニーズに対して、マンパワーで不足している。グループホームが乱立。A型の事業所、B型に関しても増えている。質の精査は必要。

(長生圏域)

- ・管内の身体科の病院 MSW の集まりで精神科の病気を持っている方の救急病院の搬送の問題のアンケートをとっている。

- ・地域資源のマップ作成。長生き卵プロジェクトといって、地域で比較的若い方たちの集まりを行う予定。

(安房圏域)

- ・高齢化率が高い圏域。グループホームや B 型が増えているがなかなかうまらない状況。

- ・病院が休床しダウンサイジングしている。

(君津圏域)

- ・4 市が合同で基幹相談支援センター、中核に保健所と地域ピアリング実施。多かったのが 8050 問題やひきこもりの問題がある。
- ・ヤングケアラーなど若年層向けの取組を模索している。

(市原圏域)

- ・今年度は地域の中にある大学の看護学生などに対して、講義に行く等を多く入れている。
- ・重層的体制整備事業を、市原市市原圏域で実施しており、そこで地域の精神保健に関する窓口も、各地区福祉総合相談センターに、一人配置している現状があり、個別ケースを通じて地域の中での連携を推進。

(千葉市圏域)

- ・人口 98 万人。精神科病院が 8 か所。協議会も多い。地域診断に取り組んでいる。

(船橋圏域)

- ・今年度も昨年と同じような形でボランティアの養成講座は普及啓発事業を、心の健康セミナーや各心のひろば交流会という形で精神疾患をお持ちの方と、各地域の方たちが一緒に交流を持つ場所を行っている。スポーツ交流会で、精神疾患を持ってる患者さんと、当病院職員等を、ボランティアの方と一緒に実施。
- ・ピアサポーターと入院患者との交流会で、すごろくを作って遊びながら地域生活について興味を持っていただくというのを新たな取り組みで、計画、対面開催。反応がよかった。今年度は、違う形で、的当てゲームでテーマトークのような形でやったが好評だった。

(柏圏域)

- ・福祉と介護の連携として、障害福祉サービスから介護サービスに移行するときも、精神障害の困難事例、介護になると支援の量が減ってしまうなどあり。円滑な連携に向けてのネットワークづくりをしている。

(質疑及びその他)

Q:圏域で入院者訪問支援事業のピアの人材をどのように確保すべきか？

A:第 1 回の研修でもピアの受講があった。派遣については圏域を越えて行うことも可能性はある。派遣は事務局にて調整していく。養成研修との連携も考えている。

Q:リムラッドなどのデータ活用について

A:統計を活用することは必要になってくるが、この場で取り上げることは難しいため、まずは各圏域で課題として取り上げるなど検討を。

Q:協力病院が増えないのはなぜか？増やしていくことが重要では。

A:まだ病院にこのことが、伝わりきれていないこともある。コロナ禍でできなかったこともあるが、今後は取り組み検討したい。

その他:高次脳機能障害支援拠点について案内。